図書館だより

令和６年(2024 年)
２月号

枚方市立図書館通信第 207 号 https:// www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/10-3-0-0-0_10.html
発行：令和６年(2024 年)２月 枚方市立中央図書館（休館日：第４火曜日、毎週金曜日）
〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1　TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962

𝕏（旧Twitter）投稿してます！枚方市 ひこぼしくん

第2回読書バリアフリー講演会　LGBTQ って何？

～性の多様性と違いを認め合う社会とは～

アイデンティティを認め合う社会を一緒に作っていきませんか？
講師の山本さんが手話で講演します。

やまもと ふゆみ
山本 芙由美さん

日　時：２月 25 日(日)13:30～15:15
講　師：山本（やまもと） 芙由美（ふゆみ） さん
（ろう LGBTQ を支援する団体「Deaf LGBTQ Center 代表」）
場　所：中央図書館 6階 多目的室
対　象：テーマに関心のある方
（手話の読み取り通訳があるので、手話がわからない人も参加できます。）
定　員：先着 50 名（無料）
申込み：2月５日(月)9:30～ 下記にて受付
市ホームページの専用フォーム／電話／ファクス

▼申し込みは こちらから

問合せ：中央図書館 バリアフリー読書支援担当
TEL 050-7105-8155　FAX 050-7105-8152
E-mail:toshokan5-3@city.hirakata.osaka.jp

2月の映画上映会「きみの瞳(め)が問いかけている」

※バリアフリー日本語字幕付。補聴器サポートシステム、手話通訳、磁気ループはありません。ご了承ください。

光を失ったが明るく生きる明香里と、罪を犯し未来を閉ざされた塁。
偶然出会った二人は惹かれあい・・・(出演:吉高由里子、横浜流星)

日　時：2月17日(土)10:30～12:30
場　所：中央図書館 6階 多目的室
定　員：先着50名（無料）
申込み：2月6日(火)9:30～下記にて受付
電話／ファクス
問合せ：中央図書館 TEL 050-7105-8114 FAX 072-851-0962

大人の学校 「枚方の地名にまつわるお話」

日　時：２月20日(火)14:00～15:30
講　師：枚方市文化財課職員
場　所：中央図書館６階　多目的室
定　員：先着40名(無料)
申込み：２月６日(火)9:30～下記にて受付
　　ホームページの専用フォーム／電話／ファクス
問合せ：中央図書館　TEL 050-7105-8149　FAX 072-851-0962

枚方の地名のあれこれを
市の文化財課職員が
お話します

▼申し込みは
こちらから

中央図書館バックヤードツアー

◇いつもは入れない中央図書館の舞台裏をぐるっと見学してみませんか。

日　時：２月21日(水)10:00～11:00
集　合：中央図書館　６階エレベーターホール前
定　員：先着12名(無料)
申込み：２月13日(火)9:30～下記にて受付
　　電話／ファクス
問合せ：中央図書館
　　TEL　050-7105-8114
　　FAX　072-851-0962

▲自動車文庫の車庫と書庫の一部

「図書館Webサービス」について

★枚方市立図書館の利用者登録をされている方は、「Web サービス」に登録すると、パソコンやスマートフォンから次のようなことができます。

●図書館所蔵の資料の予約（上限12点まで）。資料が用意できましたらメールでお知らせ。

●貸出や予約状況の確認、貸出期間の延長。（予約のある資料、返却日が過ぎた資料、枚方市以外の図書館から借り受けた資料以外）

★登録後、「利用照会」からログインして、スマートフォンやタブレットにバーコードを表示させて貸出ができます。

★登録後、LINE 連携サービスも利用できます。

★「Web サービス」を利用するには、右のＱＲコードを読み取り、画面を下にスクロールして、『新規パスワード登録』を行ってください。

※詳しくは、図書館でおたずねください。

▼「図書館 Web サービス」の登録はこちら

ちょっと本の紹介

『未来をつくる図書館 －ニューヨークからの報告－』

菅谷　明子／著　岩波書店

ニューヨークの公共図書館では、市民に対して本の貸出以外に、パソコン・インターネット・データベースの活用、情報整理等の方法を教えたり、行政のホームページの資料データ等を市民が利用しやすいように整理し提供を行っている。

また、同館では、個人で起業している人や中小企業への支援も行っており、館内のパソコンで資料作成・印刷、無料のメール送信もできる。こうしたサービスを図書館が行うのは、このことによって納税者が育ち、図書館が社会に貢献できるからだという。災害の際は、図書館のホーム・ページに情報提供のサイトが立ち上がり、災害の中での生活支援情報が図書館から提供される。これらはすべて、20 年前のアメリカの図書館で既に行われていた。DX と言われる昨今、日本の図書館の現状や如何に。